

五稜郭仮R.C. 小南武一君

◎ 伝達事項 第350地区を二地区に分割することのR.I.決議紹介

R.I.は、細則第13条第1節の規定はより、1970年7月1日付、第350地区を構成するクラブを二地区に分割することを決議する。

第350地区

北海道のうち、留萌支庁内羽幌町の北境界線、空知支庁の北及び東境界線、胆振支庁の北東境界線、日高支庁の北及び東境界線をもつて、境界線とする北側及び東側の地域

第351地区

第350地区境界線の南側及び西側の地域

◎ 卓 話 “函館圏開発と亀田町の役割” 亀田町長 吉田政雄氏

亀田町と函館市は合併すべきであると考え、促進に努力してまいりましたが、最近、両者の気運が急速に燃えはじめ、喜んでいる次第であります。函館は安政6年、横浜とともに開港して以来、北海道開発の起点、経済文化の中心地として、国内でも有数な都市の一つでありました。行政の中核が札幌に移ってから北洋の基地として、本道最大の都市の地位を長く保ちました。その後、北海道の開発が進むにつれ地方都市が形成され、本道を包括する経済圏に分化を来し、順次、函館の本道に占める相対的地位は低下してまいりました。戦後は、北洋の利権は失う打撃を受けたが、港湾の機能、商業金融の経済力、本州と結ぶ交通の要衝の立地条件から、本道に於ける重要な都市には変わらなかったが、昭和25年から本道の開発政策が道央・道東重点になり、道南の地位を低下させました。昭和27年、北洋漁業が再開されましたが、函館を再生させる主導力にはならなかった訳です。昭和30年代の北海道総合開発計画でも、主眼は道央・道東に置かれ、札幌～東京間空路の充実、苫小牧工業港の脚光等から、函館は淋しい状態となつてまいりました。そこで、この俥にして置けないと考え、昭和42年以来、函館市が中心となり、1市4町により“総合開発の基本構想”が練られ始めた訳です。この“構想”には4本の柱があり、①交通革命に対処しての長期計画をたてる。青函トンネル開通に絡む自動車縦貫道路の基地、ヘリーの基地、空港の拡充。②広域的視野で考えること。③国、道の計画に調和・反映させる。④民間の経済活動が計画的にするため指針をつくる。以上のことから、私どもは、どんなビジョン、都市像を持つていかと申しますと、①新しい時代の要請に応える交通の要衝の形成。②南北北海道の拠点都市の地歩は失わない。③港湾機能を活動した総合的産業都市にする。臨海工業地帯の形成、流通センターの設置、貿易振興、観光資源の開発。④高度の文化水準を誇る理想的な中規模都市を創る。総合大学を設置したい。この様な函館圏のビジョンから、亀田町の役割はどうかと申しますと、亀田は住宅地帯、準工業地帯、そして、流通地域として考えている。函館は将来、空港拡張するとともに、都市改造をしなければならぬ、亀田町の増加人口の7割は函館市から移つてきているが、機能も移つてきている。亀田町は、本年10月に5万人の町にならうとしている。私は、機能も人口も計画的に迎え入れるために、新都市計画法の適用を考えている。秩序のある街、軽工業中心の工業地域、また、西桔梗地には流通センターを設置、経済的機能を移転させ、商業地区を形成させ、商社・問屋街をつくつて行きたいと考えている。この地区は、国道・道々・町道が交錯する交通の要衝になることは間違いない。函館の人口が減少することは淋しいことでなく、函館圏としては発展しており、圏内の異動に過ぎない。産業・経済・文化の生活圏が共通であり、一体になっている。函館市と亀田は行政区域は別だが、住民の意識から生活圏は全く同じだといえるし、行政的にも連繫をとらなければやつて行けなくなつてきている。合併は早く実現することが、市民・町民の生活の内容を充実させるためになるし、道南の振興のためにも早く実現させる必要があると考えている訳であります。両市町の自治振興委員会でも、話し合いの空気も生れつつあります。皆様にも、この空気を更に高めるために、お力添えを賜われれば、甚だ幸いと存ずる次第であります。

次回例会日 3月4日です。

REVIEW AND RENEW (F・コンウェイR.I.会長)
再検討し 刷新しよう

Weekly Report

例会日 毎週水曜日
12:30～13:30



Hakodate North R.C.

例会場 函館市若松町拓銀ビル7階
五島軒駅前支店
TEL 23-3870

1970. 3. 4

1969～1970 第34号

第289回例会



菅原 靖 会員

本日のプログラム

“あきない80年のあゆみ”

函館R.C. 秦 良平 会員

◎ 出席報告

45.2.25 会員数 45名 出席 33名 欠席 12名
45.2.18 会員数 45名 出席 32名 欠席 13名 メーキャップ 13名 100%
他クラブ状 報函館R.C. 2.12 92.68% 函館東R.C. 2.17 92.21%
五稜郭R.C. 2.13 100%

第288回例会記録

◎司 会 外山 定男 会長

◎斉 唱 我等の生業

◎ピジター 伊豆長岡R.C. 梅原清一君(鉱業) 茅ヶ崎R.C. 真野新一君(貴金属)
函館R.C. 木島 茂君 外8名 函館東R.C. 出村喜作君 外12名
3月21日(土曜日) 松前クラブ結成1周年記念例会でありますので多数ご出席下さるようお願いいたします(登録料1,000円)

◎幹事報告

1. 本日例会終了後臨時総会を開催明年度クラブ役員の選挙を行います。
2. 事務局職員松田修司君は希望によりご退職、かわって新松玲子さんに手伝って貰うことになりました。松田君ご苦労さまでした。
3. 臨時総会終了後理事会を開催致します。

◎ニコニコボックス

1. 函館東R.C. 白崎豊治会員より過分の献金を賜りました。有難うございます。
2. 遠藤会員、シニヤアクチブになられた記念として。益々のご活躍を祈ります。

◎卓 話 大井安麿会員

日本農業に於ては肥料は徳川中期前までは下肥、推肥、鶏糞、蚕糞、蚕滓、菜種粕等農家の廃棄物が利用されてきたが中期以降綿作りを中心として農作物の商品化が各地で進み農家の現金収入が増えるにつれて干鰯とか鯨粕等の購入肥料も次第に使われる様になったが、ずっと天然の有機物質のみで化学的処理を施した濃厚な所謂化学肥料は明治になってもまだ日本には現われて居なかった。

化学肥料の発祥はヨーロッパで過磷酸石灰の型で現われた。

1774年(安永3年)セント・レーゲルが牧草に動物の骨を用いて実験したところ、牧草が非常に繁茂したという発見から始って居る。1795年ロルド・ワンドナルドが骨の成分は磷酸三石灰である事を発見した。其の翌年、キルワンが小麦の中に多量の磷酸があることを知り、骨の中の磷酸分が肥料として有効な成分であることを知った。1840年ドイツの学者フォン・リービッヒは、骨に相当量の硫酸を加えて骨の溶解性を高くすると植物がよく吸収し効力が早く現われることを発表した。

これが、現在の過磷酸石灰と同一成分のものである。

1843年にロスとギルバートの二人がテームス河畔に骨粉から過磷酸石灰を作る工場を作り、世界で初めて化学肥料の工業生産と云うものが誕生した訳である。

日本では前述の如く自然肥料の如き天然の有機物質は早くから使用されて居たが化学技術の発達に伴って居なかった為、之等の肥料が何故に有効であるかということは解明されなかったまま習慣的な使用にとどまっていた。

日本で初めて化学肥料を導入したのは高峯譲吉博士である。博士は明治12年(1879年)工部大学卒業と同時に農商務省に奉職13年にイギリスへ留学した。そこで初めて彼の地に於ける人造肥料工業の発展して居るのを知った。彼は過磷酸石灰の製造技術を修得して帰朝した。

明治17年米国ニューオルリンズでの万博へ政府事務官として行った時、出品されていた磷鉱石を見て之れを利用して過磷酸石灰工業を日本に興すことを考えた。帰国に際して過磷酸石灰と磷鉱石を持ち帰り過磷酸石灰は全国の希望者に分けて試用させた処、大変好評を得た。磷鉱石は硫酸製造会社大阪工場で過磷酸石灰の試作に用いた。

ここで彼は技術的に自信を得て工業化に努力した。結局渋沢栄一氏を説得して漸く明治20年2月渋沢氏と共に東京人造肥料会社を設立し、21年11月東京深川釜谷堀に工場が完成した。これで日本において、初めて過磷酸石灰工場が誕生したわけである。

過磷酸石灰の工業化は出来たが、之れを農家に使用せしむるのに大変な苦勞をした。

人造肥料と言うものが農民が肥料と考えている概念とおよそ縁遠いものであった為従来の肥料と切替える事が出来ず、又人造肥料というものの認識の無さから、之れを保健薬と勘違いされて珍妙な問合せが殺到するというエピソードもあった。

明治27.8年の日清戦争により当時有機肥料として多く使われて居た満州大豆の輸入が止まり、又鯨の不漁の為魚肥も品薄になり農家が人造肥料に頼らざるを得なくなって漸く使用され始めた結果、其の効力及び経済性が高く評価されて戦後になって此の工業も急激に発展した。

次回例会日 3月11日です。

REVIEW AND RENEW (F・コンウェイR.I.会長)
再検討し 刷新しよう

Weekly Report

例会日 毎週水曜日
12:30~13:30



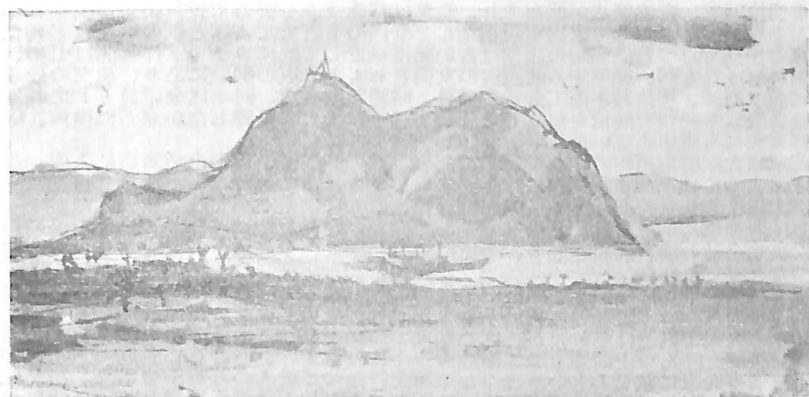
Hakodate North R.C.

例会場 函館市若松町拓銀ビル7階
五島軒駅前支店
TEL 23-3870

1970. 3.11

1969~1970 第35号

第290回例会



菅原靖会員

本日のプログラム

会員卓話 "会計こぼなし"

水谷善一会員

◎出席報告

45.3.4 会員数 45名 出席 34名 欠席 11名
45.2.25 会員数 45名 出席 33名 メーキャップ 9名 欠席 3名 93.33%
他クラブ状況 函館R.C. 89.43% 函館東R.C. 96.10% 五稜郭R.C. 100.00%

第289回例会記録

- ◎司 会 外山定男会長 ◎斉 唱 それでこそロータリー
- ◎ビ ジ ター スピーカー秦良平君(函館R.C.)
函館R.C. 棟方忠君 外3名 函館東R.C. 出村喜 作君 外9名
- ◎幹事報告 1. 総会に於いて、次年度理事が決定致しました、ご報告申し上げます。
外山定男君、木屋守迪君、塚田次郎君、布目賢治君、佐々木俊郎君岩塚陽一君
角谷隆一君
2. 松前R.C. 1周年記念会出席者は、当クラブからも是非振ってご出席下さい。
- ◎ニコニコボックス
1. 誕生祝 船矢会員、成沢会員、森正会員、高杉会員、山形会員、駒井会員
 2. 結婚祝 布目会員、神原会員、佐々木(俊)会員